



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Fall 2008 Vol.9, No.4

「日中対話」開催 —新段階に入った日中関係—

グローバル・フォーラムは、中国現代国際関係研究院日本研究所との共催により、7月4日東京において「日中対話：新段階に入った日中関係」を開催した。2006年10月の安倍晋三首相の訪中を契機として、以後日中関係が急速に好転している状況を踏まえ、中国側から3名の論客を迎え、23名の日本側専門家との間で徹底的な議論を行った。

中国側の見解

冒頭、楊伯江中国現代国際関係研究院日本研究所所長から「日中関係の現状と課題（中国側の見解）」と題して、「中日関係は小泉政権当時と比べ変化した。中国側としては、中日関係の好転が中国の平和的發展に資すると判断したからである。というも、日本の協力、貿易、投資、技術等は、中国の經濟發展に不可欠な戦略的資源である。また、中日関係は、21世紀の中国の平和發展のための踏み絵であり、それがうまく行けば、国際関係全体もうまく行くし、下手に扱えば国内の不安定にもつながる。したがって、中日関係はあらゆる意味でうまく処理する必要がある」との基調報告がなされた。

これに対して、「好転する日中関係の



基調報告を行う楊伯江所長
(左から2番目)

中で、対米関係に配慮し、日米中の総合的な戦略対話の場をつくるべきだ」(天児慧)、「中国政府は、国内で第4世代の人々のナショナリズムをコントロールできるのか」(田久保忠衛)、「特にネット社会の反日感情が非常に強い」(今井敬)、「胡錦濤政権の対日政策を『暖春』到来の一因として、評価したい」(伊藤憲一)などのコメントが出された。

日本側の見解

つぎのセッションでは、冒頭、谷野作太郎元中国大使より「日中関係の現状と課題（日本側の見解）」と題して、「日中首脳は往来が再開されたことは、日中関係の正常化を意味し、大変結構なことだ。この良好かつ安定した関係を維持していくことが、アジアのためでもあり、世界のためでもある。国民感情は、メディアの影響を受けやすく、また移ろいやすい。両国首脳は、日中関係の大事さを腹に収めて、しっかり対応してほしい。また『戦略的互惠関係』に関しては、長期的かつ包括的な視野で、両国関係を『世界の中の日中関係』として捉えていく必要がある」との基調報告がなされた。

これに対して、「中国は日米同盟そのものに反対しているわけではなく、むしろアジア太平洋地域の安定要素の一つだと思っている」(楊伯江)、「東シナ海ガス田の共同開発が合意されたことは、両国にとって大きな意味があった。この方向をさらに進めていくべきだ」(大河原良雄)、「世界的な過剰流動性が資源や食糧の価格高騰をもたらしているが、どういう東アジア地



挨拶する伊藤憲一
当フォーラム執行世話人 (中央)

域協力が可能か」(進藤榮一)、「チベット問題では、中国側の情報をほとんど聞かない。もっと情報を開放し、PRを推進するべきだ」(小笠原敏晶)、「世論調査結果によれば、中国人は『侵略戦争などの過去の歴史』そのものではなく、『歴史への反省の欠如』を問題にしており、その意味では反応型の対応だ。『戦略的互惠関係』のための国民的基盤はしっかりしており、今後の課題は、様々な偶発的要素に両国がどう適切に対処していくかだ」(孫建紅)などのコメントが出された。

謝辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の12社20口です。ここに特記して謝意を表します。

[経済人世話人所属企業] [5口]

トヨタ自動車 キッコーマン

[経済人メンバー所属企業] [1口]

住友電気工業 鹿島建設

新日本製鐵 東京電力 旭硝子

三菱東京UFJ銀行 日本電信電話

富士ゼロックス ビル代行

日本郵船

(入会日付順)

議論百出から

当フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp/jpn.htm>) 上の政策掲示板「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

北京五輪で「中華民族百年の夢」は実現するのか？

防衛省防衛研究所教官 増田 雅之

北京五輪は、政治的色彩を強く帯びたものとして記憶されることになりそうだ。チベット「暴動」が発生し、その後新疆ウイグル自治区などにも波及した。加えて、「一つの世界、一つの夢」を掲げる北京五輪の開幕式では、過剰な演出が明らかになり、結果として「中国異質」論を一部に惹起してしまった。多くの中国人にとって、北京五輪を開催することは「中華民族百年の夢」であった。阿片戦争以降の屈辱の記憶を脱し、「大国」としての再登場を世界に認知させる契機となるからである。例えば、『北京青年報』は、北京五輪の開幕式が「世界の億万の人々に短時間の間に中華文化の精髓を理解させ、中華

民族の誇りと自信を感じさせた」と強調した。

しかし、「中華民族百年の夢」は、過剰なまでの統制のもとで「実現」されていた。メダリストの会見で、欧米の記者がチベットや新疆ウイグルの問題を取り上げると、「スポーツと関係がない」と言って、司会者が質問をさえぎる。また、北京市は、五輪期間中に北京市内にデモ専用区を設けると表明していたが、8月18日時点で1件も許可されていない。「中華民族百年の夢」を掲げながら、それとの不調和音が内外で確実に大きくなっており、夢の実現はそう簡単ではないようである。

(2008年8月21日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- 8/22 「グルジア問題をどう考えるか」 (廣瀬陽子)
- 8/14 「世界は新冷戦期に逆戻りするのか」 (伊藤憲一)
- 7/23 「EU諸国のしたたかな外交力」 (小久保康之)
- 7/22 「先行き不透明な中東情勢を読む」 (石川純一)

- 7/14 「中国・吉林大学での講義：中国の変化を期待して」 (伊藤英成)
- 7/11 「サミットで取り残された原油価格高騰問題」 (細野豪志)
- 7/8 「平等な世界実現と長期的気候変動対策の両立」 (小端拓郎)
- 6/16 「2008年の世界を考える三つの視角」 (山内昌之)

フォーラム活動日誌 (6-8月)

- 6月1日、7月1日、8月1日『メルマガ・グローバル・フォーラム』(6、7、8月号) 発行
- 6月15日、7月15日、8月15日 "GFJ E-Letter" (6、7、8月号) 発行
- 7月4日 「日中対話：新段階に入った日中関係」 本会議 I、II (楊伯江 中国現代国際関係研究院日本研究所所長他25名)
- 7月7日 Walid Mahmoud ABDELNASSER 駐日エジプト大使来訪、意見交換 (伊藤憲一執行世話人他2名)
- 7月11日 第206回国際政経懇話会 (朝食会) (ペマ・ギャルポ国際情勢コメンテーター他24名)

■新規メンバーの紹介

(6-8月分、入会順)

【有識者メンバー】

- 千野 境子 産経新聞社特別記者
- 本田 優 朝日新聞政治部編集委員

事務局便り

当フォーラムのホームページ上に開設されている政策掲示板「議論百出」は、姉妹団体である日本国際フォーラムの「百花斉放」、東アジア共同体評議会の「百家争鳴」とともに、開設以来早くも2年が経過しました。

毎日寄せられる投稿で、事務局は交通整理に大賑わいしていますが、時折「投稿したいが、載せてくれるか」とのお問合わせも頂きます。必ず掲載させていただきますので、遠慮なくご投稿ください。ホームページ上から直接投稿する他、Faxやメールでも受け付けております。

ペマ・ギャルポ氏語る「今、チベットで何が起きているか」

7月11日開催の第206回国際政経懇話会(朝食会)で、チベット出身(現在日本国籍)の評論家ペマ・ギャルポ氏は、「今、チベットで何が起きているか」と題して、次のとおり語った。

中国は、人口も、面積も、半分以上が非漢民族のものだが、そのことを日本人は知らない。今年3月の騒乱は、

拘束されているチベット僧の釈放を求めたものだ。今やチベットだけでなく、ウイグルや内モンゴルなども、自治を求め始めた。中国は外から見たら大きな国だが、いつ爆発してもおかしくない「活火山」である。中国の「民主派」とも連携しながら、「覇権国家」でない中国を目指したい。



講話するペマ・ギャルポ氏(中央)



グローバル・フォーラム会報
2008年秋季号
(第9巻 第4号 通巻第36号)

発行日 2008年10月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 藤野 智子

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] gfj@gfj.jp
[Fax] 03-3505-4406 [URL] http://www.gfj.jp/